

令和3年度 第1回 大阪府市文化振興会議 議事概要

- ◆日時：令和3年12月16日（木）10時から11時まで
- ◆場所：エル・おおさか 南館7階 南734会議室
- ◆出席委員：蔭山委員、梶木委員、片山委員、永田委員、中西委員、橋爪委員、春野委員、広瀬委員、藤野委員、森口委員
(蔭山委員、梶木委員、永田委員、広瀬委員、藤野委員、森口委員はリモート出席)

【概要】

1 会議の成立について

(事務局)

- ・委員11名中10名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告
(わかぎ委員は欠席)

2 大阪アーツカウンシルの取組みについて

(橋爪会長)

- アーツカウンシル統括責任者である中西委員が今年度末で任期満了を迎えるにあたり、来年度より新体制となるアーツカウンシルに関し、特に中西委員に担当いただいた平成30年度以降の取組みについて委員の皆様にご報告いただきながら各機能ごとに意見をまとめていきたいと思っております。
- まず、中西委員より、これまでの取組みについて説明いただきたいと思います。

(中西委員)

- 4年間ありがとうございました。橋爪会長をはじめ、委員の皆様のおかげをもちまして4年間活動することができました。資料3にある活動は、アーツカウンシル部会委員、アーツマネージャー、大阪府市とともにチームとして活動したことであり、それをこのように報告することができています。まずは皆様にお礼を申し上げます。
- 取組みとしては、自身が就任する前年度にありました、アーツカウンシルのあり方検討部会が出しました、評価・審査、調査、企画という3つの軸に基づいて活動してきました。
- 評価・審査については、府市文化課所管事業の検証と評価を行いました。すべての事業についてヒアリングを実施し、報告を受けてPDCAサイクルに基づいた評価シートの作成を行いました。また、視察にも行かせていただきました。
- この4年間においては府市補助金事業の採択審査・実地調査に最も力を入れてきました。特にコロナ禍を受けて、大阪市芸術活動助成が拡充され申請数が増えたこともあり、これまで以上にたくさんの事業の審査をさせていただきまし、採択した補助事業及び助成事業はできる限り実地調査をいたしました。それにより、現場の方々が一層に取組んでおられること、現場がどのような活動をしているのかということ府市担当者と共有することができました。
- 調査については、2つの軸で実施しました。

1つ目は、毎年『文化施設の調査』及び『補助金・助成金に関する調査』、そして『新型コロナウイルス感染拡大影響下における50人未満のアート拠点ピックアップヒアリング調査』、『新型コロナウイルス感染拡大影響下における大阪府内の公立文化施設のネットワーク状況調査』を実施しました。これらを通して大阪府内の様々な文化活動の拠点になるところ、あるいは文化芸術活動が今後伸びていくためにどのような文化資源があるかということ調査しまし

た。それを公表し多くの方のよりよい活動に資することを目指しました。

- 2点目は、『大阪芸術文化交流シンポジウム』と題し、公開調査というかたちで毎年度行いました。より多くの大阪の人材が活躍していることが目に見えるように毎回テーマを設けて行いました。また、それぞれのテーマについては、毎回、文化振興会議での課題を調査に繋げるようにしました。多くのキーパーソンが登壇するシンポジウム形式の公開調査は、コロナで大変な状況の時にもすぐに関係者のネットワークを築くことができるなど、大阪の文化芸術に関わる人たちのつながりがこれまで以上に強化されたと思っています。
- 企画においては、大阪府市に人材育成、補助金・助成金制度の改善等について提案しました。これは、結果を十分に検証できていません。もう一点、コロナ禍における大阪の芸術文化への支援に関する提言を行いました。
- 他機関との協力企画について、大阪府立江之子島文化芸術創造センターの『えのこ de マルシェ』という地域に開かれたイベントでオープンオフィスをしたり、民間の文化財団とともにやっているおおさかアート commons の催しにパネリストとして参加し、地域や民間の方々と接点を持ちました。また、相愛大学や大阪市立大学の公開講座等にパネリストとして参加し、大学との連携を行いました。さらに、行政機関との連携としまして、おでかけアーツカウンシルと題し、昨年度は此花区で小規模なフォーラムを開催しました。現在は、ミラノのアーティストと交流するなど、様々なかたちの連携を探っています。また、昨今、全国に地域アーツカウンシルが設立されていますが、アーツカウンシル・ネットワークという全国組織に参画し、大阪の活動を伝えるとともに、全国の文化行政の状況について大阪府市に情報提供し、芸術文化活動に役立てていただくようにしています。
- きめ細やかに目配りして活動していますが、今後の体制においては、これにこだわることなく、次の段階に進んでいただければと思います。

(橋爪会長)

- コロナ禍の2年間、コロナ対応に関する重要な取り組みもしていただけたと思います。
- アーツカウンシルの評価・審査、調査、企画という大きく3つの機能に関し、現在進行形である令和3年度を除き、平成30年度からの3カ年の取り組みについて事前に委員の皆様のご意見をお伺いしたものを事務局で資料3にまとめております。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・「資料3」に基づき、文化振興会議意見(案)について、説明

(橋爪会長)

- 資料3の「文化振興会議意見(事務局(案))」について、各委員よりご発言いただき、承認が得られましたら(案)を外してまいりたいと思います。
- 事務局(案)について、修正及び追加のご意見がございましたら、ご指摘、ご発言をお願いしたいと思います。
- もう1点ございまして、今後、アーツカウンシル統括責任者を公募するにあたり、次期アーツカウンシルについてご意見がございましたら、あわせてご発言いただければと思います。
- 順にご発言いただきたいと思いますが、広瀬委員が途中退席される予定ですので、よろしければ、広瀬委員に冒頭、口火をきっていただければと思います。よろしく願いいたします。

(広瀬委員)

○全体的にきれいにまとめていただいたという印象でございます。事務局（案）の文言については、大幅にこんなふうにしてはどうかという提案はございません。

○全体的に、今期、シンポジウムをはじめ非常に多くのことを始められたということと、本当にきめ細かく現場を回っていらしたというのを強く感じましたので、ぜひ、そこを強調していただけたらよいのではないかと考えております。

（蔭山委員）

○まずは、お疲れ様でした。コロナというこれまでなかった状況の中で、これだけのことをやってこられてきて、本当に頭が下がる思いです。

○事務局（案）については、これでよいのかなと思いますが、もし、付け加えるとしたら、今回の調査で出てきたことは、コロナ禍だからというよりは、コロナ禍以前からの本質的な課題も含まれるので、次期統括責任者の方は非常に大変だと思いますが、その点を踏まえてやっていただけたらなと思います。

（梶木委員）

○非常にきめ細やかに現場を回られて、調査をされて、そして助言をされてきて、ありがとうございますという気持ちでいっぱいでございます。

○特に、コロナ禍の中では、舞台に立たれたり、演奏されたりという表現者の方はもちろんですが、それを支える方々など、本当に困っている方々にも心を砕いておられる様子などもわかりました。これから、全体でどうかということもありますので、それを含め、振興を図っていくということが重要ですし、また、大人が大変な時に子どもが置いてけぼりになるということがあります。文化を継承していくということは非常に大事なのですが、子どもに対する支援というのも引き続き行っていただきたいと思います。次なる担い手を絶やさないとということが今要求されていることかなと思います。

（片山副会長）

○総論から言うと、大阪アーツカウンシルは全国的にみても非常に卓越した活動をしてきたと評価できるのではないかと思います。

○特に、コロナ禍で多くの自治体が政策をどう推進していくのかということに非常に困っていたわけですが、その中で機動的にきめ細かい対応ができたというのは大阪アーツカウンシルならでのことで、非常に高く評価できていると思います。確かに今日委員の皆様から出していただいた指摘事項の中では、もっとこういことができたらいなということはあるのですが、アーツカウンシルが進む方向で何か間違いがあったとかさぼっていたとかいうことでは決してありません。人的、財政的な制約の中でまだ少しそままでいかなかったというだけです。次期に向けて体制を整えていくということがあれば、大阪府市の文化政策の方向性としては非常にいい形で進んでいくのではないかとこのように思っております。

（永田委員）

○非常に丁寧に細やかに調査等してこられてきて、敬意を表したいと思います。これを踏まえて定期的にシンポジウムも開催されており、市民への還元も考えられていると思います。活動全体としては非常に評価できるものと考えております。

○希望としましては、調査を踏まえた広報といいますが、どういうものであったかということをもう少し市民に還元できるようなシステムがあるとよいと思いますが、それは次の課題かと思っております。もうひとつは、アーティストの仕事に寄り添った調査・評価をされたと思いますが、この部分にはアーティストでない市民の希望や関心というものを組み込んだものにもなっていると思われ、例えば子どもへの芸術文化活動の支援や学校教育への支援というものも十分検討されているようで、

バランスの取れた活動であったと思います。

(春野委員)

○まずは、4年間お疲れさまでした。浪曲界に身をおく人間として現場の話でいきますと、視察に来ていただいたり、補助金の申請の仕方なども非常に丁寧に教えていただいたと聞いています。補助金の申請はアナログとデジタルの場合がありますが、申請現場の人は思っている以上にハードルを感じていて、デジタルで申請しなければならない補助金は諦めてしまう場合があります。少しずつスキルは上がってきてはいますが、どうしたらそのハードルを下げられるかというようなことが現場としては気になることです。

○アーツカウンシルということではないのですが、以前から申し上げていることで、どうしても大阪は文化を大切にしていないのではないか、お金を出さないという印象になってしまっています。一度ついてしまった印象は払しょくできないのではないかと感じておりまして、皆で頑張っていくしかないと思っております。

(藤野委員)

○限られた予算とマンパワーで多彩な活動をしてこられたことは深く評価したいと思います。中西委員にダイレクトにお聞きしたいのですが、この評価・審査、調査、企画という大きく3つの機能についてかなりの仕事量だと思いますが、実際の業務量の比率についてお伺いしたいと思います。

○2点目は、事務局にお聞きしたいと思います。大阪府市で作っているアーツカウンシルですが、やはり大阪市に色々な調査が偏りがちになっているかと思われ、大阪府下の複数の基礎自治体の文化政策に関わっている中で、アーツカウンシルについて耳にすることがないんですね。基礎自治体のレベルでもアーツカウンシルを作りたいという話が出ていて、大阪にあるけど自分たちは関係ないよね、サポートは受けてないよねとなっている。規模の小さい基礎自治体では文化行政のサポートが十分でないと思いますので、予算とマンパワーがいることなのですが、そういったところに寄り添うということが大阪アーツカウンシルの重要なミッションなのだと思いますが、なかなか浸透していないと思います。事務局のサポート体制や実際取り組む中での課題があれば教えていただきたい。

○3点目は、中西委員にお聞きしたいのですが、他地域アーツカウンシルとの連携として全国組織の「アーツカウンシルネットワーク」に参画したとありますが、その中で共通の課題と大阪固有の課題、他地域アーツカウンシルとの違いについて教えていただきたいです。

(中西委員)

○皆様よりいろいろご意見いただきありがとうございます。評価・審査、調査、企画の業務比率ですが、評価・審査5、調査4、企画1という割合かと思います。私たちがコントロールしているわけではありませんが、評価・審査に関しては最も大きな予算が割かれていますので丁寧にしています。調査については調査、シンポジウムを限られた予算の中でできる範囲でしようと考えています。企画については予算がありませんので、できる限りいろいろなところと連携して一緒にやらせていただくという手法をとっています。

○2点目の市町村との関わりという点ですが、まず、文化施設の調査をしたというのは、大阪府内の市町村にどうやってコンタクトしているかということを考え、やっていたことです。特に、大阪アーツカウンシルは規模が小さいのでどのようにしていけばよいかかわからず、市町村に様々な文化施設があればそこがアーツカウンシルのような機能を持つことができるかもしれないという考えのもとに調査をしながら、補助金・助成金のことも含め何かできないかと動きかけていたのですが、コロナになり、できなかつたということです。ですので、調査のところは別々に見えるかもしれませんが、気持ちとしては、小

さな大阪アーツカウンシルが府内の様々な現場に対してどのようにアプローチしていくかと思ったときに、支部というのは語弊があるかもしれませんが、各地域の公立文化施設が、それぞれの地域拠点になるのではと考えたからです。

- 3 点目のアーツカウンシルネットワークへの参画については、前任者から関わっていることですが、とても勉強させていただいています。全体的にいつも、地域アーツカウンシルは様々だねという言い方で終わるのですが、様々なことの大前提として自治体の規模が違うということがありますが、人口比の議論がないままに様々だねということで終わってしまっているというのが実状です。ほかに、地域アーツカウンシルにおいて、気づかされたことは、大阪は大阪府市文化振興会議共同設置規約がありその中に位置づけられている、また文化振興計画がありそのなかに位置づけられているという計画と法的なことと二つ揃っている中で活動していますが、実は、そのように揃っている自治体のほうが少ないのではないかとこの気づきがありました。ちなみに、今年度のシンポジウムは地域アーツカウンシルのことをテーマにしており、今お話したようなことを資料にして公表していこうと考えています。

(事務局)

- 政令市を除く市町村との関わりということですが、文化振興計画にもございますように府内市町村に情報提供、意見交換ということも進めておりまして、今年7月に府内市町村文化行政主管課長会議を開催しまして、アーツカウンシルの取組みや文化振興計画の概要、それからイベントの周知等を行い、連携を図ってまいりました。文化課で実施している大阪文化芸術創出事業を市町村各地において展開していくというようなこともさせていただいている状況でございます。引き続き、そのような会議等を通じまして連携に取り組んでまいりたいと考えております。

(中西委員)

- 少し補足させていただきます。市町村との関わりですが、大阪府市の中でいちばん大きな事業であります大阪文化芸術フェスにおいては、アーツカウンシルのアドバイスもあり年数を経るに従って、市町村で実施する事業も増えてきています。今後どのようになるかわかりませんが、市町村の方々の積極的な文化活動の場の連携が進みつつあるという印象があります。

(森口委員)

- まずは、中西委員、統括責任者という重責お疲れさまでした。中西委員のもとに多くの才能ある方々が集まってくださったように大阪アーツカウンシルの事業が、皆様が発言されているように、本当にきめ細やかに、すぐ現場のことを考えられた調査が行われたと思います。今、第2回大阪芸術文化交流シンポジウムのレポートを拝見しているのですが、ここに書いてあることで、視察時に大阪アーツカウンシルと文化芸術事業との対話を創り出しているということですが、ここに書いてあるのですが、ここが、調査のいちばんの成果であったのではないかと思います。現場との対話の場を拓いたということは、非常に大きいのではないかと思います。また、調査の結果、事業の多くは美術館で発表するには難しいかもしれない、または美術館ではない場所や国外で実施する必然性のあるものがあると書いてあるのですが、来年、中之島美術館が開館するわけでありまして、今後の美術の形態として、むしろ美術館の枠に収まり切れない活動というのがもっと多くなっていくと思います。そういったときに、やはり大阪アーツカウンシルの果たす役割というものをもっと大きなものになっていくのではないかと思います。
- また、全く異なる観点からなのですが、大学の授業で府の施設と毎年プロジェクト演習という授業をさせていただいて、小学校低学年までの児童と大学の学生とでワークショップを開かせていただいています。指定管理者の方がやっておられて、非常に熱心に取り組んでおられるのですが、やはり指定管理者の方では、少ない予算でいかに多くのプロジ

エクトを回していくか、いかに集客があるかや広報など、結果として現れる部分は一生懸命やられるのですが、少ない予算でいかに成果をあげるかということに重きをおかれているせいか、プロジェクトはこちらにお任せになっているんですね。予算もださず、すべてこちらの持ち出しになっていて、たぶんこのプロジェクトだけでなくその施設で開催されるすべてのプログラムについて指定管理者側ではお金を出さず、やる側の持ち出しになっているのではないかと思います。こちらとしては大阪府の立派な施設を貸していただいている、やらせていただいているのでこちらが全部しなければならないというような感じにも捉えられるんですね。大阪府民の方々ためにこのプロジェクトを我々が協力してやらせていただいているのに、予算面も含め全てこちら側がやらないといけなというの、毎年やらせていただいておりますし、学生にも教育効果があると思ってさせていただいておりますが、どうなんだろうなと思います。今回大阪アーツカウンシルが指定管理者まで調査の範囲を広げていただいたのは非常にありがたいのですが、数字に現れてこないところの調査というのをぜひお願いしたいなというのを現場の声として挙げさせていただきました。

(藤野委員)

○今の森口委員の発言を補足するかたちで、少し厳しいかもしれませんが、構造的な問題を再確認する必要があると思います。行政の方も新しく来られた方もいらっしゃると思うので、比較的長く大阪に関わってきた人間としての発言ですが、やはり府市とも文化振興財団というものを無くしてきたわけで、それに取って代わって民間の指定管理者が安く請け負って文化施設の指定管理をやってきた。民間の指定管理者にもいろいろなレベルがあるし、良心的なところもあるし、地道な活動をしているところもあるのですが、最近、顕著に目立ってきたのは、コロナのこともありますが、やはり稼げれば良いということですね。人材を育てるとか文化を耕すという視点ではなくて、指定管理者制度を用いて企業の業績を上げれば良いんだというような搾取の形態が目立ってきています。芸術文化制度にとっては根本的な矛盾が露呈してきていると思います。根本的な構造の問題なんですけれども、文化振興財団が無くなったかわりにその分をアーツカウンシルがカバーしなければならないというような状況になってきているわけですね。ただ、アーツカウンシルは事業をする団体ではなく、企画でさえ事業費がついておらず評価・審査、調査をする。それはとてもとても重要なことで、指定管理者制度における様々な問題を浮き彫りにできると思うのですが、それを解決するためのエージェントとしての役割はアーツカウンシルはそこまでできないわけですね。ですから、やはり府市が文化振興財団を持っていないということの構造的な矛盾が出てきているのではないかと思います。その構造的な矛盾の狭間でアーツカウンシルが頑張っていくというのは非常に厳しいことだと思います。

(森口委員)

○藤野委員に、言葉が足りない部分補足いただき、また長年の経験を踏まえ理論的に整理いただきありがとうございました。

(片山副会長)

○今の議論を補足する形で発言させていただきたいのですが、指定管理者制度の問題に関して言うと、民間企業であるからとか財団であるからという話ではなく、そもそも指定管理を委ねる側の行政が何をミッションにその施設を管理運営させ、何を評価するのか、ということが全てなわけですね。人材育成や収益につながらない公益性の高い部分をきちんと実施してくれるところに出す、そしてきちんと評価し、それに指定管理料を付けるというようにすれば、民間の営利企業であってもそれに向けて頑張ります。しかし、多くの自治体が予算がない中、それらに対し予算化しないし評価軸も持っていないとなると、営利企業だけでなく財団であっても同じパフォーマンスをします。さらに言えば、直営の職員であっ

ても収入が得られる集客のできることしかやらなくなります。ですからこれは、営利企業なのか財団なのか直営なのかの問題ではなくて、行政側がその施設がどういうことを達成すれば評価するのかという基準を持っておらず、評価の部分ができていないことにあるのですね。それをやるだけの予算をきちんと付けていないということになるわけです。

○今、アーツカウンシルができたことにより、補助事業についてはアーツカウンシルがきちんとチェックするようになりましたが、将来的には指定管理を発注する側のやり方、それを評価するという部分をアーツカウンシルが担っていくべきなのだと思います。日本の自治体の制度の中では、行政の担当者というのはどうしても数年で人事異動していきますから、文化政策として何を実現させないといけないのかということがなかなか前任者からの引継ぎだけではうまくいかないところがあります。それを担保するために条例があり計画があるわけなのですが、それでも限界がありますから、そこをフォローするところをアーツカウンシルの専門性に期待したいところです。ただ、それをやるためには現在の大阪アーツカウンシルの予算や人員では難しいところもありますから、アーツカウンシル体制を次期に向けていかに充実させていかに大阪府市文化振興会議で議論していく必要があるのではないかと思います。

(橋爪会長)

○資料 3 右欄の文化振興会議意見としましては、現行の文案に関しまして特に修正要望はなかったと思いますので、事務局案のとおりとしたいと思います。ただ、お子さんへのサポートが重要である、担い手であるアーティストに寄り添うサポートが重要である、大阪市以外の大阪府下の自治体との関係を考えるべきなどのご意見をいただきました。また指定管理者等にいかに役割を託して、きちんと評価をするのが重要であるというご指摘が片山副会長からございました。アーツカウンシルも同様に、どのような役割を担っていただくのかということと、評価をどうするのかなどを検討するべきかと思えます。いただいたご意見を整理させていただければと思います。ありがとうございました。

○では、議題 2 の大阪アーツカウンシル統括責任者選考部会の設置についてでございます。先ほど申し上げたように、中西委員の任期が 3 月末までとなっておりますので、アーツカウンシル部会長の指名については共同設置規約第 11 条第 4 項の規定により公募によって選定された委員を指名することと定められております。そこで、選考にあたりまして、前回の公募と同様、本審議会に選考部会を設置し、審査等を行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(各委員異議なし)

○異議なしということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。また、部会に属する委員に関しましては共同設置規約第 11 条第 3 項及び第 5 項の規定により、会長が指名することになっております。公募の公平性、公正性を担保するため、本件に係る選考部会委員の氏名は選考、審査終了まで、非公開にする必要がございます。ついては、本選考部会に属する委員の選任は、私にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員異議なし)

○ご異議なしということで、ありがとうございます。それでは、今後選考部会を立ち上げて公募を進めさせていただきたいと思えます。議題 2 につきましては以上でございます。

○最後、議題にはございませんが、委員の皆様、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。ないようでしたら、最後、中西委員から一言いただきたいと思います。

(中西委員)

○いろいろなお意見をいただきありがとうございます。私たち大阪アーツカウンシルが頑張ってきたのも、大阪でたくさんの芸術文化活動をされている方がいるという実感のもとに活動ができたからだと思います。また、改善点がたくさんあるということも、まだまだこれからアーツカウンシルが必要とされているということだと思いました。私の任期はあと少しですが、全ての先生方に大阪のアーツカウンシルのことを見守っていただきつつ、今後も大阪の文化芸術についてお願いしたいと思います。ありがとうございました。

(橋爪会長)

○ありがとうございました。本日の議事は以上となります。

— 以上 —